

# 市民の「力」発掘育成がカギ

## 地域で支え合う包括ケアシステム

### 南区地域ミニフォーラムから

さいたま市の高齢化率は、全国平均より4ポイントほど低く推移しているものの、2014年3月には21%を超え、いよいよ超高齢化社会に突入しました。団塊の世代が75歳以上になる2025年を見据え、介護サービスの充実や高齢者を支える地域の仕組みづくりは待ったなしです。

昨年4月の介護保険制度改正で、介護サービスの中身や利用者負担が大きく変わりました。市町村が独自に手掛ける「新しい総合事業」(平成29年4月～)もその一つ。生活支援や介護予防分野における市町村の役割がより広がります。その中では、高齢者自身も含めた地域住民の皆さんに、

介護予防や生活支援サービスの担い手となっていただくことを促しています。

既にこうした活動を南区内で実践している自治会やNPO団体が一堂に会した「地域ミニフォーラム」がこのほど、武蔵浦和コミュニティセンターで開かれ、私も参加してきました。先進的な活動事例報告や、代表者の方々のご苦労や地域づくりにかける熱い思いを聞き、地域力を高めるために自分には何かできるのか、一人ひとりが考える契機になりました。

シニア世代の社会参画と市民全体の支え合いによるまちづくりに私も全力を注いでいきたいと思います。

#### 【団体紹介】

- 内谷2丁目自治会(内谷)…自治会館を使用した「ふらっとサロン」を開設。高齢者への丁寧な戸別訪問も実施。
- 陽だまりの会(太田窪)…個人宅を開放した高齢者介護予防サロンを開設。チケット制の病院送迎も行っている。
- シルバーボランティアひまわりの会(別所)…家事援助や植木の剪定など介護保険制度の枠外で高齢者の在宅生活をお手伝い。
- コミュニティカフェおひさま(南浦和)…タブレット端末を活用した高齢者の暮らしサポートの実証実験に取り組む。
- このまちで暮らす会むさしうらわ(白幡)…高齢者の生活をトータルサポート。安否確認の見守り電話サービスを実施。
- BABAラボ(鹿手袋)…「孫育てグッズ」の企画制作販売。高齢者の働く場の創出と世代間交流を実現。

## 28年度当初予算 待機児童解消に34億 英語教育本格スタート

3月議会で行う当初予算審査は、税金の使い道をチェックする重要な場です。平成28年度のさいたま市一般会計総額は前年比2・8%増の4689億円。歳入(=収入)の約半分は市税収入でまかなわれていて、さまざまな行政サービスに使われます。歳出(=支出)を市民1人当たりの金額に換算すると、約37万円が使われる計算です。私が力を入れている政策のうち、子育て・教育分野では、▽待機児童解消に向けた保育所等整備(34億円)▽各区役所に妊娠・出産包括支援センター開設(1222万円)▽英語教育の充実(3億7千万円)などに予算配分されました。



▲委員会で発言する富田かおり市議

#### 南区関連予算

- ◆南区まちづくり功労者顕彰【新規】  
南区内で世代間や地域の交流、コミュニティの活性化に貢献している方々に対し、日頃の活動に感謝の意を伝え、広くその活動を周知します。
- ◆駅周辺への交通安全看板等設置【新規】  
区内の駅周辺や自転車通行環境を整備した道路計5カ所に、自転車の安全利用を呼び掛ける看板を設置します。
- ◆認可園新たに6園  
28年度は南区内に認可保育所を新たに6園開設。小規模保育事業所は4園を開設しました。
- ◆歩いていける身近な公園整備  
県教職員住宅跡地(内谷5丁目)、花と緑の散歩道沿いの環境空間(別所～鹿手袋地区)を整備します。
- ◆南浦和駅東口エレベーター設置  
南浦和駅西口に続き、東口にエレベーターを設置する工事は28年度完成予定です。

#### 世代を超えふれあいの場



富田かおり事務所では定期的に市民ふれあいの場を設け、囲碁教室などを通し、世代を超えた交流を図っています。気軽にご参加ください。

日時: 毎月第2・第4日曜日  
午前10時～12時  
場所: 富田かおり事務所  
(南区別所3-3-5松本ビル2階)  
対象: 小学校低学年から  
お年寄りまで無料

問い合わせ: 中村(090-2425-6921)まで。



#### 女性政策PTが活発 皆さんの声をお寄せください

私の所属する市議会会派「民進改革さいたま市議団」はこのほど、女性議員による女性政策プロジェクトチームを立ち上げました。重点項目に、①仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進②女性の経済的自立の促進と「M字カーブ(年齢別就業率)」の解消③男性の意識改革④地域での支え合いの仕組みづくり⑤女性と子どもに対するあらゆる暴力の根絶—を掲げています。

私はこれまでも、保育所や放課後児童クラブの待機問題、女性のひとり親家庭支援などに取り組んで参りました。また、現在所属している文教委員会では、特別支援教育の在り方や、女性の健康リテラシー教育などについて議論を重ねています。どれも、働く女性たちや子育て真っただ中のお母さん方から多くのお声を聞かせていただいた上での政策提言です。

6月定例会からは、医療提供体制・待機児童対策特別委員会の副委員長を務めています。どんな小さな声でも構いません、皆さんのご意見をお寄せください。



▲待機児童解消を市長に申し入れる富田市議(左)ら

# 家族が認知症になったら

## 専門家に聞く現状と課題～畳カフェから



▲花俣さんの話に興味をもち傾聴する参加者

富田かおり事務所では、地域でご活躍の方々を講師に招き、まちづくりや地域づくりについて語り合う勉強会「畳カフェ」を定期的に開催しています。

今回の介護保険制度改正により、認知症対応の新事業もすべて市町村で行うことになりました。認知症の人を地域で支援していくことは大きな課題です。「畳カフェ」では、「認知症の人と家族の会」埼玉県支

部の代表世話人で介護福祉士の花俣ふみ代さんをお招きし、認知症支援の現状と今後の課題についてお話を伺いました。

#### 認知症の今

WHOの調査によると、世界の認知症患者は2015年に4,600万人を超え、7秒に1人の割合で新規患者が現れている。誰もがかり得るのが認知症です。

ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯が増え、昔は見えなかったものが顕在化してきたと考えられます。「誰も気づかないうちに認知症が進行してしまった」という状況を避けるためには、平場での議論のハードルを下げ、認知症について多くの方が理解を深めていくことが必要です。

#### 初期集中支援チーム

介護予防・日常生活支援総合事業への制度移行に合わせて地域支援事業に位置づけられているのが「認知症施策の推進」。なかでも必須となるのが、「認知症初期集中支援チーム」です。専門医の指導の下、家族や周囲からの訴えを受けた専門職が訪問し、観察・評価、家族支援などの初期支援を集中的に行います。

#### 支援は最長6カ月

支援チームの役割は、認知症の人やそのご家族を適切な医療や介護サービスにつ

なげること。その後は地域包括センターやケアマネジャー、かかりつけ医がサポートします。さいたま市では西区と大宮区、浦和区と中央区をそれぞれの活動エリアとする2チームが稼働しており、市内全域への配置が急がれます。

#### 今すぐ相談したいなら…

もし今、「家族が認知症かもしれない」「病院に行きたがらない」などで悩んでいる方がいましたら、お住まいのエリアの地域包括支援センターへ相談してください。ケアマネジャーや社会福祉士、保健師らが力になってくれます。

#### 介護者サロン・カフェ

患者本人や介護する家族に関するシビアな問題もお互いに話せる空間です。介護者サロンは10区の各シニアサポートセンター28カ所で実施。介護者カフェは見沼、岩槻、大宮、浦和宮内の4カ所で実施しています。



▲南区中部圏域シニアサポートセンター「ハートランド浦和」

#### 南区でも5月から 認知症カフェ(オレンジカフェ)

認知症の方ご本人や家族のほか、医師やケアマネジャー、地域住民など誰もが気軽に参加でき、交流できる集いの場。浦和、中央、大宮、北、西、南の6区のシニアサポートセンター8カ所で実施。南区のオレンジカフェは、シニアサポートセンター「ハートランド浦和」で5月からスタート。スターバックスコーヒーが協力。コーヒーの香り漂う癒しのひと時を過ごせます。